

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	長崎県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	佐世保市立日野小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	3	1	19	26
児童数	93	103	94	91	81	84	1	547	

研究の概要

1. 研究主題

自ら考え、いきいきと活動する子どもの育成 ～個に応じた指導方法の研究を通して～
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・全学年・算数 前年度までにTT加配があり、2・3・4年生の算数の学習をTTで進めてきた実績がある。その中で、各学年単位の取組ではあるが、少人数指導や習熟度別指導も実践されてきた。 また、全職員の共通理解のもとで研修を進めるために、全学年を通して学習する算数を選択することとした。算数に重点を置き、個に応じた指導方法を研究するため、2年生以上の算数をTTで進められるように工夫した。

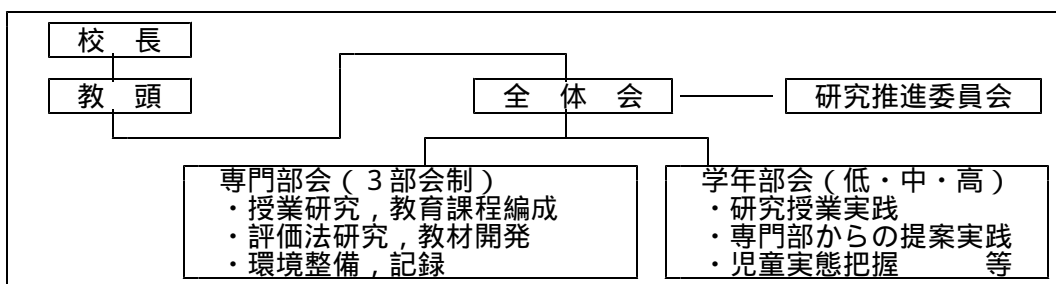
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	
--------	--

平成15年度	テーマ 自ら考え、いきいきと活動する子どもの育成 ～個に応じた指導方法の研究を通して～ 研究の見通し 校内での研究会(主として研究授業)を実施し、個に応じた指導をするための教材や学習形態等について研修を深めていく。 研究の内容・方法 算数科の学習を中心に、個人差(習熟の程度の差・学習スピードの差・興味関心の違い・学習スタイルの違い等)に応じた「わかる授業」を実践することを通して、「確かな学力」の定着を図る。そのために、TTによる効果的な指導方法、習熟度別指導、少人数指導、コース別学習等を積極的に導入する。
--------	--

平成16年度	テーマ 自ら考え、いきいきと活動する子どもの育成 ～個に応じた指導方法の研究を通して～ 研究の見通し 15年度の成果と課題、児童の変容の様子を考察し、個に応じた指導のさらなる充実を図るための具体策を実践していく。 研究の内容・方法 算数科の学習を中心に、TT等複数教師による指導はもちろん、日常の学習でも「個に応じた指導」ができる学習スタイルを確立する。 小・中との連携を図る方法を工夫し、特に6年生から中学1年生へのつなぎの部分はどう連携するか、研究を深める。
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

「個に応じた指導」のために、複数教師による少人数指導、習熟度別指導、効果的なT・Tでの授業が日常的に実践されるようになり、そのことが「わかる授業」につながっている。担任だけの授業も、個に応じたコース別学習やヒントカードの提示等の工夫をすることにより「個に応じた指導」が実践されるようになり、そのことが、児童の学習への意欲の高まりへとつながっている。授業形態を工夫した後のアンケート等でも、改善されたT・Tによる授業や習熟度別指導、コース別学習は、児童からの反応が良い。

2. 今後の課題

限られた人数の中で「個に応じた指導」を展開するには、複数教師が関わる重点単元の設定（あるいは、重点学年の設定）が必要である。大枠を決めた後も、必要に応じて柔軟に対応できる体制作りが必要となってくる。そのためには、児童の実態をより正確に把握すること、教材の開発（発展的・補充的内容）が必要になってくる。また、教材の共有・保管のできる体制作りも不可欠である。

学力等把握のための学校としての取組

全体の学習の定着具合を把握する材料として、1学期と3学期（2月初旬に予定）に学力調査（算数・全学年）を実施し、実態把握と変容の把握、今年度実践してきた「個に応じた指導」の検証をする予定である。また、学習形態を工夫して実施した単元については、児童の意識調査を実施し、今後の学習の参考にしている。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成16年1月30日（金）に中間発表会を開催
平成16年11月頃に研究発表会を開催予定
同一指定を受けている他校と、県教委・市教委の中間指導時に相互交流をする。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無